

主な仕様

CANバス信号解析機能

CANバス	CAN Version 2.0B
ビットレート	1M, 500k, 250k, 125k, 83.3k, 33.3k[bps], または10k ~ 1M[bps]の任意のビットレートを設定可能(設定分解能は0.1kbps)。 High speed CAN(ISO11898) Low speed CAN(ISO11519-2)に対応
トリガ機能(標準装備)	
トリガソース	CH1 ~ CH4
トリガタイプ	SOF :SOF(Start of Frame)でトリガ。 Error Frame :エラーフレームでトリガ。 ID Std/Data :データフレーム/リモートフレーム(ID: 標準フォーマット)でトリガ。 ID Ext/Data :データフレーム/リモートフレーム(ID: 拡張フォーマット)でトリガ。 ID/Data OR :4種類のデータフレーム/リモートフレームのOR条件でトリガ。 IDごとに標準フォーマット/拡張フォーマットを選択可能。 Msg/Signal :CAN Message(ID)とSignal(ID/Data)でトリガ。
解析機能	
信号入力	CH1 ~ CH4, M1 ~ M4から選択
解析可能フレーム数	最大3000フレーム(トリガ点前後1500フレーム)
解析対象フレーム	データフレーム、リモートフレーム、エラーフレーム、オーバーロードフレーム
解析結果表示	デコード&リスト表示
解析結果リストのデータ保存	解析結果リストの簡易表示および詳細表示のデータをCSV形式で保存可能
解析補助機能	データサーチ機能、フィールドジャンプ機能、スタフビット演算機能、デコード表示